

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部附属病院 感染制御部では、下記の研究を実施します。皆様には本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題名：リニューザブル駆血帯の汚染状況の評価と、採血モデルを用いた血流感染リスクの検証

1. 研究に関する情報

1) 研究の目的や概要について

院内感染対策は、医療安全を確保するうえで極めて重要な業務です。特に大学病院では、さまざまな感染症への対応が求められるため、院内感染対策に関する研究から得られた知見を臨床の現場で活用することは、大きな意義を持ちます。当院では、末梢静脈路の確保や採血時にリニューザブル駆血帯(以下、駆血帯)を使用していますが、使用後の消毒方法は統一されておらず、部署によっては消毒が実施されていない実態もあります。先行研究では、使用済み駆血帯の12～50%がメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に汚染されていたことが報告されており、当院の駆血帯も同様に汚染されている可能性が高いと考えられます。本研究では、当院で使用されている駆血帯の汚染状況を調査し、次亜塩素酸ナトリウム溶液による消毒効果を評価します。また、MRSAで汚染された駆血帯を用いた採血手技が血流感染のリスクとなり得るかどうかについて、採血モデルを用いて検証します。

2) 研究実施予定期間

上記の研究は、実施機関の長の許可後から2027年3月まで行われます。

2. 研究対象

対象となる駆血帯は、外来棟および各診療科の病室等で使用されたものになります。

3. 試料・情報の内容

患者様に使用された駆血帯を使用します。次亜塩素酸ナトリウム溶液を用いて消毒・乾燥させた群と、消毒・乾燥を行わない対象群に分け、駆血帯の表面から培養検体を採取します。定量培養を実施し、駆血帯の汚染状況ならびに次亜塩素酸ナトリウム溶液による消毒効果を評価します。

また、本研究において個人情報を収集することはありません。

4. ご質問などの連絡先

この研究に関して疑問、質問があった場合は下記連絡先へ連絡をお願い致します。

宮崎大学医学部附属病院 感染制御部
氏名 高城 一郎

作成日

2022年6月3日 第1版作成

電話：0985-85-9 8 3 4

FAX：0985-85-9 8 3 4